

時事新報定額

時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價運送料廣告料ハ左ノ如シ

一枚二圓〇二箇月前金五十錢 〇三箇月前金一圓五十錢 〇六箇月前金三圓

一箇年前金六圓

〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送テスルモノニ限リ本文定額ノ外ニ一箇月ニテ六圓ノ送送料ヲ申受ケ

時事新報廣告料前金一行ニ付

一行廿四行	一日	二日以上	七日以上	十六日以上
自一行至十行	九錢	八錢	七錢	六錢
十一行至二十行	八錢	七錢	六錢	五錢
二十一行以上	七錢	六錢	五錢	四錢

時事新報

勅令第五十六號

昨日の時事新報官報欄内に記したる勅令第五十六號は地方税に關する寄附又は雜入の事にして凡そ地方税を以て支辨す可き事業に關し寄附する金額物件は府縣會の議決を経て寄附者の指定したる用途使用に充つ可し又地方税の雜収入は他の収入豫算と同しく府縣會の議定に付す可しとあり是れは何れも府縣會の議決を以て之に重なり付する者なれば會の爲めには先づ以て目度外次第ありと云ふの外なし殊に人民の奇特を以て寄附したる其金額物件を費し又使用するに當り寄附者の指定に任ずるが如きは最も至當のことに於て堤防の目的に兼りたる金と道路の爲めに用ひらるゝが如きは其本意に背くことなれば傍より彼を是れは論ず可し云々は金主の差圖通りに金を費せしめざるに於て人情に於ても道理に於ても開然す可らざる所のものなり抑寄附物の用法に就ては既に遺憾な次第なれども我輩が序ながら一言せんと欲する所のものは其寄附物の性質如何の事あり抑も日本國は西洋諸國に比して富實ならずと云ひ、日本人の生活の程度は西洋人より高からずと云ひ、西洋人は時として大に財を散するやとあれども日本人には兎角散財の勇氣なしと云ふが如きは世人一般の知る所にして詰り日本人の財産ハ平均して西洋人に及ばざる其實證の事跡に現はれるものならん例へば神社佛閣の建立又私立學校病院等の設立維持に就ても善捐を募るは甚だ難儀にして容易あることにあらず其事務を人に謀れば至極尤ありとて賛成者多けれど實際に金を捐るの一段に至れば先づ人々を以て其趣を評すれば有志無金の世の中ありと云はざるを得ず然るに爰に奇なる政府の筋より直接にも間接にも何か事業を起せんとせば人民に寄附義務を課するもの甚だ少からず各府縣に於て道路開墾など云ひ官廳建築と云ひ公立學校病院又は公園集會所など設立と云へば寄附義務は種々集まりて見事に成るもの多し既に先般も各地方にて中學校の維持云々に付ても其寄附金の盛衰あるも何の苦勞もなく去て巨額の資本を募集し了り又彼の海防費納付は別段の事にして意外の好結果なりしよし又數年前に湖山形福縣縣等にて新道普請の時などに其地方の人民と小前れ者に至るまでも金圓又は所有の田畑山林等を寄附しるるも多し其數ありしと云ふ畢竟我日本國民の順長にして政府を信するものと厚きが故に然るものからん政府の起業を見れば人民の恰も私の貧富を忘れて熱心以て公共の爲先に散財するものゝ如し此一點より見れば日本人の生活その程度低しと雖も低きは低き割合にして財を散するの勇氣は西洋人にも愧る所なしと云ふ可し

御名刺印刷直下廣告

先般各新聞へ廣告セシ如シ定價修正ノ注文掛キ定メ候一付續々御申込ノ程奉願候

東京新橋宗十郎町

活版石印 印刷

然りと雖も我國民知識の程度は今日尙未だ高からず云はば舊幕府の遺民とも稱す可きもの甚だ少なからずして地方官が之を御するの法は唯公法のみを依る可しす所謂手心なるものにて時に之を説諭し又警戒して辛ふして大なる過からしむるとの事は我輩の毎度傳聞して事實に相違なきことならんれば彼の寄附金義捐金等の事に付ても素より人民自發の熱心より募集に應ずるものなるは疑なきことなれども憐む可し其無智不明、官の筋にて何々事業を企て其事に付き寄附云々と聞けば是れは人民の義務、即ち舊時其言葉を用ふれば御上への御奉公御役目にて相勤めすしては叶はぬと心得その熱心の餘り前後を顧みざるが如き事情ありとも云ひ難し去りての自身力になき財を投じて却て後に當惑せるとある可し誠に憐む可き次第なれば此邊は地方官の手心にて假令人民が一時寄附金に熱することあるも能く其情實を取扱ひ實際あるまじきこと認めたらば唯その奇特の情を嘉するのみにして出金の沙汰に至らしめざるやう呉れども注意し寄附金の募集と共に又一方には寄附を防ぐの工風も大切なる可し心なき人の考にさらば人民の志にて寄附する金を故さらし拒むると迂濶なりと思ふ可きなれども凡そ政府たるもの自ら政府相應の徳義なき可らず此徳義を傷けずして之を護らんとするに眞實に徳を脩るの事からず公衆の嫌疑を避けんが爲めに特別に勉る所なる可らず天下無數の人民の中に假令一人一人とも其本心になき寄附金したる者あるか又は之を寄附して後に後悔し又難儀するが如きものあれば政府の徳義に理を生ずることなれば眞實に徳を脩るの事に加へて尙ほ足らざるものと知る可し我輩が寄附を防ぐとまで痛言したるは政府の此徳義を重んずるが故なり舊幕府の時代に諸藩に御用金の沙汰ありしかども是れとて毛取て直に政府より命するも非ず其表面は人民が再三再四懇願の上にて然る後御用金上納の許可を得るの體裁に取替ふたるとなれども其體裁は何の効能もかく御用金の沙汰は今日に遺りて封建時代に行はれたる弊事の一端を計へたり左れば封建の時に其弊は人民の誠意誠心よき蓄て出金したる者もありしならんが故に今日の寄附金に一般に人民自發の心も出でぬのからんやなれども其中に然らざる者あるに於ては他の職をも抹殺するの恐なきにあらざれば政府の徳義を重んずる地方官にして其注意の大切なるは筆紙に記しても盡さざる所あり偶々勅令を拜讀して寄附の文字あるに付き平生の徳意を記して大方の教を乞ふ

長崎通信

十月三十日發

長崎控訴院會 去頃より開會あり一は各始審裁判所長の會談にて一は各始審裁判所長審判の會談などし各所長會談は去二十七日迄に檢事會議は同二十八日迄に結了し行方任所に歸れり

縣會議員改選 東彼村郡選任者の都合四名ありしが内三名は藤原太郎朝長慎三横山寅一郎の三名に再選し他の一名は河野爲八郎氏當選せり又南高來郡選任者は二名なりしが志波三九郎三原實行の兩氏再選せり

縣會 來月十日二十年度土木費追加案にて臨時縣會を開會し廿一年度の通常會も引續き開會あるべきと云ふ

靜岡通信

十一月四日發

三州有志大懇親會 當縣下駿、遠、豆三州二十三郡の有志者は來る廿三日靜岡公園内に於て大懇親會を開く等なるが賛成者も頗る多く尋常の懇親會に比して餘程大仕掛のものあり

製紙會社 東京の河瀬秀治、村田一郎其他の諸氏が當地第三十五國立銀行の頭取小林年保氏と共に駿州富士郡原田村に製紙會社を設立するとなししが地勢其他の便利無類なる場所柄なれば同社株券の申込み頗る多し既に二十萬圓は東京人にて満株となるの勢ありが小林氏は靜岡にも其株主があつては紙商人の中に一萬圓支拂つたと云ふ此程銀行へ重立したる商人を呼寄せ相談せしに何れも其株主となるべしと承諾せり同會社の株券は一株百圓の由又深澤一其他五六當務家の發起にて遠州周智郡原田村へ製紙會社を設けし協賛に右賛成員栗田榮太郎其他二三氏は土地及び山林等の拂出願は爲め目下奔走中なりと云ふ

紙商組合 從來當地には紙商組合なかりしに付紙商一同協同の上今回同組合と設け尙安倍、有渡兩郡の紙商をも之に加盟せしむると云ふ規程書及び収出豫算金額原案起草委員と撰み目下其編制中であるが出来上り次第直ちに出版する趣なり

縣會 本縣通常會は來る十一月より開會の筈なるが清水港へ縣廳を移轉するの說も盛んなれば縣廳新築の原案に付ては議論白出するなるべし

對馬通信 十月二十三日發

士族投産 士族投産の事業は明治十六年中原支廳の開成あり去以降製絲製絲、漁業、陶器製造の三事業を設け夫々投産の道に就くものありしも漁業傳習の事は何日しか跡方もなく現今現存する者は製絲陶器にて聊か將來見込あるものと然れども陶器は未だ輸出の道もなく雲丹の輸出將來に望まれば從て之に入る、陶器の需用と聞く道理あれども是未だ充分の見込なきは蓋し收購の後直に賣込む所ありて餘を得るの道あるに依るものなり若し否らずして蓄あるも之を買込むのなければ今日の如く飼養の年々増すは到底望む可らざることならん幸々編廳の施設其常を得て賣込の道を開きしは養蠶飼養の爲め甚だ好都合なり

汽船航路 竹敷浦一名淺茅浦は下縣郡内と中斷なたる灣浦にして東の方の僅かに十間餘の灣門を爲し干潮の時の船も通せざる淺瀬なり是を大船越の瀬戸と云ふ西の方海門廣く殆んど三里に及びり竹敷浦に人港する汽船の首なる此の西の大口よりするものにて本縣に向ふの航路には餘程迂回の道とあるなり故に東方の地味と切斷して航路を通ずるときは實に謂ふ可らざるの便利と來さずし此灣中に在る村落は甚だ多かりしも餘て往來交通の不便を計れば今度府有志の者あり長崎より小蒸氣船を借受し、々々大船越より舊城下諸村は餘程便利を本縣に與へり

米國 ユー・エ・ブ・ン ユー・エ・ブ・ン府は、幸二郎、土屋宗七、士別、市中を散歩するれも勉強中あるが、別、市中を散歩するれも勉強中あるが、別、市中を散歩するれも勉強中あるが、

軍艦出入 佛艦ウイスマス號は廿四日、米艦ブルックリン號は九州沿海周航の目的を以て二十五日に、孰れも當港を抜錨したる露艦ウイスマス號の目今當港に在て修繕中なり

地方税及區費 金融の景況は稍回復の色あるに當り地方税及區費等の上納に總て延滞を來し是迄町内に相當の金持ありと評判されしもの近頃公賣處分を受くること云へり

三義炭礦會 支配人瓜生慶氏は此程上海支店を赴けり

靜岡通信 十一月四日發

三州有志大懇親會 當縣下駿、遠、豆三州二十三郡の有志者は來る廿三日靜岡公園内に於て大懇親會を開く等なるが賛成者も頗る多く尋常の懇親會に比して餘程大仕掛のものあり

製紙會社 東京の河瀬秀治、村田一郎其他の諸氏が當地第三十五國立銀行の頭取小林年保氏と共に駿州富士郡原田村に製紙會社を設立するとなししが地勢其他の便利無類なる場所柄なれば同社株券の申込み頗る多し既に二十萬圓は東京人にて満株となるの勢ありが小林氏は靜岡にも其株主があつては紙商人の中に一萬圓支拂つたと云ふ此程銀行へ重立したる商人を呼寄せ相談せしに何れも其株主となるべしと承諾せり同會社の株券は一株百圓の由又深澤一其他五六當務家の發起にて遠州周智郡原田村へ製紙會社を設けし協賛に右賛成員栗田榮太郎其他二三氏は土地及び山林等の拂出願は爲め目下奔走中なりと云ふ

紙商組合 從來當地には紙商組合なかりしに付紙商一同協同の上今回同組合と設け尙安倍、有渡兩郡の紙商をも之に加盟せしむると云ふ規程書及び収出豫算金額原案起草委員と撰み目下其編制中であるが出来上り次第直ちに出版する趣なり

縣會 本縣通常會は來る十一月より開會の筈なるが清水港へ縣廳を移轉するの說も盛んなれば縣廳新築の原案に付ては議論白出するなるべし

對馬通信 十月二十三日發

士族投産 士族投産の事業は明治十六年中原支廳の開成あり去以降製絲製絲、漁業、陶器製造の三事業を設け夫々投産の道に就くものありしも漁業傳習の事は何日しか跡方もなく現今現存する者は製絲陶器にて聊か將來見込あるものと然れども陶器は未だ輸出の道もなく雲丹の輸出將來に望まれば從て之に入る、陶器の需用と聞く道理あれども是未だ充分の見込なきは蓋し收購の後直に賣込む所ありて餘を得るの道あるに依るものなり若し否らずして蓄あるも之を買込むのなければ今日の如く飼養の年々増すは到底望む可らざることならん幸々編廳の施設其常を得て賣込の道を開きしは養蠶飼養の爲め甚だ好都合なり

汽船航路 竹敷浦一名淺茅浦は下縣郡内と中斷なたる灣浦にして東の方の僅かに十間餘の灣門を爲し干潮の時の船も通せざる淺瀬なり是を大船越の瀬戸と云ふ西の方海門廣く殆んど三里に及びり竹敷浦に人港する汽船の首なる此の西の大口よりするものにて本縣に向ふの航路には餘程迂回の道とあるなり故に東方の地味と切斷して航路を通ずるときは實に謂ふ可らざるの便利と來さずし此灣中に在る村落は甚だ多かりしも餘て往來交通の不便を計れば今度府有志の者あり長崎より小蒸氣船を借受し、々々大船越より舊城下諸村は餘程便利を本縣に與へり

米國 ユー・エ・ブ・ン ユー・エ・ブ・ン府は、幸二郎、土屋宗七、士別、市中を散歩するれも勉強中あるが、別、市中を散歩するれも勉強中あるが、別、市中を散歩するれも勉強中あるが、

胃腸

胃腸は消化の中心也故に飲食を消化し、血の道、年久敷痰、胸支又痛、産前後の患、血の道、年久敷痰、胸支又痛、産前後の患、血の道、年久敷痰、胸支又痛、産前後の患、

胃腸

胃腸は消化の中心也故に飲食を消化し、血の道、年久敷痰、胸支又痛、産前後の患、血の道、年久敷痰、胸支又痛、産前後の患、血の道、年久敷痰、胸支又痛、産前後の患、

生第七回

生第七回

生第七回